

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000681		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきららに尼崎園田		
所在地	兵庫県尼崎市瓦宮2-10-41		
自己評価作成日	2022/01/03	評価結果市町村受理日	令和4年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	2022/1/19及び3/3		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事を手造りしての提供は、開設時より継続し続けている。メニューもご利用者様と一緒に考えたり、食べたいものを伺いメニューに取り入れている。そのため、買い物は毎日行き、スタッフにて調理をしている。コロナ禍以前は、買い物も利用者様と一緒にしていた。食事については、嚥下状態が気になる方は、提携病院の大隈病院にて嚥下状態の評価をしてもらい、一人一人の嚥下状態にあった食事形態で提供をしている。嚥下状態が悪くなら施設の食事を食べられなくなり退去せざるを得なくなられた方がいらっしやっただけ、歯科と連携し口腔内の状態にも気を配り生活をしていただく。東園田、瓦宮、小中島地区の地域主催の認知症の勉強会は管理者が参加していたが、コロナ禍のため現在は休止中。社内に音楽療法士がいるので月2回音楽療法を行っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所の利用者アンケートにおいて一職員の言動が目目された。初めて介護の仕事に就いた人であるが、極めて遺憾な内容であり介護職としての薫育が必要と認められた。最初の所属ユニットから別のユニットに配置換えして、ベテランで計画担当兼務のフロアリーダーの職員の下、組織をあげて必要でふさわしい力をつけられるよう取り組みが始められた。今後、この成果に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を目指しているが、コロナ禍で地域との交流ができていない。しかし、職員は一丸となり理念を遂行できる環境が生まれてきている。	GHが所在する園田小中島地区・農会には地域を良くしようとの交流・勉強会があり、公民館で開催。前任管理者の勧めで参加、住み続けたい地域づくりを懇談。自治会の存在も判ったので未参加の民生委員も含め参加を働きかけていく。地域包括と家族のみの現状から委員拡充を図りたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でできていない。	本事業所は職員と利用者が日々、食材購入に外出、調達した食材で3食を賅ってきた。現状の食材確保は職員のみがしているが、コロナ終息後は利用者との協働を復活し、地域との交流も再開する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症勉強会に時管理者が参加していたが、コロナ禍で休止中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で文書にて発信。	利用者の入退所、ヒヤリハット等の状況、委員からの提示情報と運営上の課題等の送付・提示があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍でできていない。	市からの指導は、県・市発信文書の送付であり、その殆どがメールによるもの。ポイントは、三蜜を避ける等、コロナの伝播に気をつけること等であった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて実施している。 2か月毎に身体拘束廃止委員会実施。	身体拘束をしないケアの実践は、2か月毎開催の当該委員会を進めている。利用者アンケート中であつた介護職員の言動は、適格性に欠け改善検討が必要と、利用者の家族・保護者(別の介護職員)が再三指摘し、管理者や同僚等も注意してきた案件であつた。最近、同様の発言は少ないようだが、早急な改善が必要と思われる。	言葉かけの方法も業務推進上の必要事項と認識し、言葉の暴力等についても、スタッフ全体の課題として取り組み話し合い、利用者がGHで暮らす日々を安全、安心なものとなるよう推進されたい。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて実施している。 2か月毎に身体拘束廃止委員会実施。	利用者・家族との交流においては、個人の尊厳が重んじられる必要がある。身体拘束や言葉の暴力等の是正、その他の対応が必要な場合、関係者の意思疎通を図りつつ、課題を先送りしない対応が必要である。担当委員会の活動・協議等で進められてはどうか。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて実施している。	成年後見制度について、利用者の有無、後見人(職種など)の必要性、制度を活かす上での研修対象(ケアワーカー)の範囲、その理解定着度を検討してはいかが。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、入居契約時に行っている。	事業所における契約担当者は管理者。心身の減退や看取りの必要な状態での利用者・家族との相談説明はしており、主に担当する職員は管理者。計画担当が加わることがある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。本社に電話窓口を設置。	意見箱への投函は見られない。本社の専用電話窓口(別個に保護者・家族用と職員用)はある。家族、職員とは日常の対話の中から出てくる意見はある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見は聞くようにしている、。	会社は、職員向け・家族向けの個別の専用電話を設置している。日常的には管理者が職員意見に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、両ユニット共にチームとしての形が出来上がってきており、やりがいに繋がっていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全員研修を受けることができるよう担当者はスケジューリングをしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尼崎市グループホーム連絡会に加入しているが、コロナ禍で未開催。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは暫定でのプラン作成を行うが、その方にあつたプラン作成をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望もプランに反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、他の利用者様とのスムーズな人間関係を構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はしていただけるようにしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会は条件付きで家族としている。その他の方は、リモートや電話での対応を行っている。	原則、家族の来所は遠慮いただく。必要な家族面会の際は、マスクをつけ、パーティション越しでとしている。半数の家族が来所。リモートや電話対応は、可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様同士の関係には気を配っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行っている。	入居時に家族から生活歴などを聞き取り、シートに記入し、共有している。また、随時職員からも聞き取りをし、申し送りノートに書き込みケアプランに反映できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく詳しく家族様に聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行っている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気になることがあればご家族様には都度報告している。その中でケアに反映が必要なから反映させたケアプランを作成している。	見直しは、計画策定担当者(フロアリーダー兼務)・管理者(=他の有資格職員と共にケアマネの仕事もこなす)の3者で協議し、月1回ユニット会議の議題に上げ検討している。急ぎの場合は、その都度検討しプランに反映している。主治医からも往診時に意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は電子化されており都度入力をしている。その他、申し送りで必要なことは言葉で伝えるか、介護日誌の裏面やノートに記載し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でできていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は月2回訪問診療にきている。それ以外の相談は、訪問看護や主治医の病院にて指示を受けている。内科以外の受診も出来るだけ対応するようにしている。	主治医以外に心療内科を受診する人が何名かあり、主治医からの紹介をもらい、心療内科かやはらクリニックが、往診してくれるようになった。利用者の急な体調不良については、職員が通院同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週一回の訪問で、その時に必要なことは伝えている。急ぎの時は電話で昼夜問わず伝えて指示を仰いでいる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係は構築している。	最近の事例では、協力医療機関に心不全で入院していた利用者の退院に向け、月2回程度地域連携室と情報交換し、2か月後に退院となり、スムーズな受け入れ対応が出来た。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し、今のお気持ちを伺い書面に行っている。書面にはしているが、その時がきたら再度お気持ちを伺い対応をしている。	重度化の場合の対応確認については、管理者・家族・フロアリーダーが、集まり、主治医からの説明を受けて、再度家族の意思確認をして、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。	火災訓練(通報・避難・消火)は、年2回実施。2021年9月30日と、2回目は、1月に実施予定しており、水害想定避難訓練を2021年6月30日に実施している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修にて実施し、反映させている。	研修については、法人:(株)スターツケアサービスが、共通した独自の教材を使用し、研修担当の職員が講師役をし実施し、修了後にレポート提出し研修担当・管理者・本部で、共有管理されている。	尊厳重視の取り組みを日常業務の中で、反映できるよう、施設として課題となっていることに、テーマを絞り、研修担当が企画提案し十分な意見交換により職員の資質向上を計る取り組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考える。食事作りのお手伝い、後片付けのお手伝いを一緒におこなっている。	メニューは、食事担当職員(各フロア1名)が、中心となり、利用者の意見も聞き、1週間前ごろに決めている。食材の買い物と一緒に出かける機会もある	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けやトイレ介助を行っている。	排泄パターンを把握し、声掛けすることにより、トイレでの排泄が可能となることも多く、パットへの漏れが軽減されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無は、トイレ介助が必要な方については、把握し必要に応じて出せるよう援助をしている。自立で回数が分りにくい方はトイレ後に本人様に伺い把握するようにしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間を決めて入浴していただいている。	水曜日に往診があり、職員対応の都合上、入浴日を月・火・木・金を入浴日として、週2回の入浴ができるよう、曜日を固定するのではなく、利用者の様子を見ながら声掛けをして、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立の方は、自由に居室で横になっておられる。援助が必要な方については、状況を見て本人様に確認の上、横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わると都度発信し、様子をうかがうよう伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で、イベント的な外出を控えているため、気分転換がしにくい状況にある。近隣への散歩は実施している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で近隣への散歩のみ実施している。	施設の周辺は、緑の多い住宅地で、近くに公園や池もあり、散歩コースとなっており、四季の変化も楽しめる。コロナ禍が、終われば、お花見も期待したい。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、手元にお金がないと不安な方にはお持ちいただいている。必要なものの購入は、立替で購入しているので、なにか必要なものがあればすぐに購入できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればすぐに対応をしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かないようシンプルにしているが、作品などは展示している。	共用空間の展示物は、フロアリーダーが中心となり、季節の変化を感じられるような工夫をされている。換気や掃除は、こまめに職員が対応し、手伝う利用者もある。利用者家族から、清潔で、明るい雰囲気環境整備がされているとの声もあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人のお席は用意しているが、それ以外に自由にお過ごしいただけるようソファを用意している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくお使いになられていたものをお持ち込みいただくようお願いをしている。	居室は、それぞれの好みで整えられており、朝食後の9:30~10:00ごろに随時職員が掃除をはじめると、モップや掃除機をつかって、自室を掃除する利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンプルに作ってあるので、なるべく自立して生活は送っていただいていると思う。		

基本情報 令和4年

事業所番号	2893000691
法人名	スターツケアサービス株式会社
事業所名	グループホームきらら尼崎園田
所在地	尼崎市瓦宮2-10-41 電話 06-6494-7343

【情報提供票より】令和 4年 1月3日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成28年11月 1日		
ユニット数	2	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8人 非常勤 6人 常勤換算 12.3人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	2階建て

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	円
			水道光熱費 12,000
			管理費 15,000
敷 金	144,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,300円		

(4)利用者の概要(月日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人朗源会 大隈病院
---------	--------------

目標達成計画

作成日 令和4年4月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	家族アンケートにて、不適切な言葉遣いや対応をしている職員がいるとの指摘あり。	不適切ケアの減少、根絶。	アンケートに特定の人物について不適切ケアが行われているとの記載あり。書いた家族は、きらら尼崎園田でその人物と一緒に働いており、同僚である。アンケート前にその報告は受けていたので指導を行っている。ユニットの他の職員も指導を行っている。ユニットの他の職員も指導を行っている。ユニットからは、そんなに気にならなくなったとの評価だったが、アンケートには名指しで書かれていた。現在は、ユニットを別にして働いており、異動先のユニット職員からは特に不適切ケアで困っている話は上がってこない。虐待に対する研修は社内の研修でカリキュラムに組み込まれており、2か月毎に身体拘束廃止委員会(管理者、リーダーにて構成)に於いて虐待の有無、身体拘束の有無、不適切ケアの有無を確認している。現在は特に上がってこない。また、そのような話が上がってくれば個別に面談、研修を行う。	達成済だが継続して行う。
2	38	家族アンケートにて、不適切な言葉遣いや対応をしている職員がいるとの指摘あり。	尊厳重視の取り組みを日常生活で反映する。	常々、一人一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応や言葉遣いをするよう、研修でも学習し現場でも指導は行っている。これからも不適切な対応が見られた時は即指導を行って修正をしていく。	達成済だが継続して行う。
3	1	コロナ禍の影響もあるが地域との関りが少ない。	地域との関りを密接にしていく。	コロナ禍の影響で地域との関りは止まっている状態である。地域との関りを地域の動きにアンテナを張りながら参加できることがあれば参加していく。運営推進会議も開催していく方向で考え、地域の方の参加を促していく。	6ヶ月
4	20	コロナ禍であるが、現在面会はしていただけているが、以前のようには来ていただけていない。	コロナ前のように家族様に面会をしていただく。	コロナの感染状況にもよりますが、現状では予約制、会議室でパーティション越しの面会としております。換気もしながら面会していただいているので、もっと来ていただけるように広報していく。	6ヶ月
5	48	コロナ禍に於いて、今まで屋外(駐車場)で行っていたベークキューや火花は近隣や世間の目がきになり、行ってこなかった。	きちんとソーシャルディスタンスを守りながら屋外のイベントも実施していく。	以前はご家族様も招いて、大きなイベントとして行っていたが、まずはご利用者様とスタッフで屋外で気分転換を図れるイベントを計画し行っていく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。